

# くつろぎタイム

vol.216 2024.3

編集・発行：八頭町立図書館

郡家図書館 八頭町宮谷 256-4

船岡図書館 // 船岡 539-1

八東図書館 // 北山 48-1

## 今年度のニュース、あれこれ。

様々なことがあった2023年度も、もうじき終わり。「そんなこともあったっけ……」という思い出のお供に、こんな本はいかがでしょう？

ナンバー

「Number 2023年7月20日号」(雑誌) 文藝春秋

5月

落合関、  
しご名を改名

あまりの強さに「令和の怪物」とも呼ばれる鳥取県出身力士の落合が、名前を伯桜鵬と改めました。怪我による休場を乗り越えて、初場所で活躍した姿は記憶に新しいのではないのでしょうか？

伯桜鵬が載っているのは巻頭とはいえ僅か1ページ。けれどいつかは名前の由来となった師匠の宮城野親方(元横綱 白鵬)のように、大きな記事や特集で取り上げられる日が来ることでしょう。

7月

小池栄子さんが  
八東図書館に!?

『北条政子』永井路子／著 文藝春秋

先の大河ドラマで北条政子役を演じられた小池栄子さんが、若桜町からスタートしたロケの流れでなんと八東図書館に来館！ 図書館にいた小学生たちもインタビューを受け、その様子がテレビで放送されました。

ドラマ同様、こちらの小説も北条政子を愛情深い人物として描いています。政治に苦悩しつつ颯爽とした雰囲気も持つ政子に、小池栄子さんの演技が重なります。

9月

大人気の朝ドラ、  
ついに最終回

『ボタニカ』朝井まかて／著 祥伝社

植物学者の牧野富太郎を主人公・万太郎のモデルにした朝の連続テレビ小説が最終回を迎えました。放送中はよく「万太郎さんの本はありますか？」と声をかけられたことから、興味深くてももしろいドラマだったことが窺えます。

『ボタニカ』を含め、牧野富太郎に関する小説を借りた方の多くは、印象が違うという感想を持たれたようです。しかし、ドラマが終わった今だからこそ、「万太郎さんではない牧野富太郎」の小説を改めて読んでみるのはいかがでしょう？

10月

藤井聡太棋士が  
八冠全制覇

『師匠はつらいよ 藤井聡太のいる日常』杉本昌隆／著 文藝春秋

近年、叡王戦が加わり、過去最多の8つとなったタイトル戦。独占がより難しくなったにも関わらず、藤井聡太棋士が八冠全制覇を成し遂げました。

そんな藤井棋士が師事するのは、この本の著者でもある杉本昌隆棋士。エッセーには「藤井君の師匠」と呼ばれ、弟子である藤井棋士に負かされ、それでも弟子たちの成長を喜ぶ師匠の日々が綴られています。棋士の仕事や将棋界などについても、ユーモア溢れる杉本棋士の筆致で楽しく知ることができます。